



日本音楽教育学会ニュースレター 第74号

目 次

1 学会からのお知らせ

1. 日本音楽教育学会第49回大会の御礼 ..... 小川 容子 2  
2. 院生フォーラム ..... 仙田 真帆 3  
3. 第15回音楽教育ゼミナールの報告 ..... 石上 則子・高須 裕美 4  
4. シンポジウム「芸術教育の未来」開催のお知らせ ..... 今川 恭子 5

2 委員会からのお知らせ

1. 編集委員会からのお知らせ ..... 水戸 博道 6  
2. 国際交流に資する企画の支援について ..... 坪能由紀子 6  
3. 日本音楽教育学会設立50周年記念出版  
『音楽教育研究ハンドブック』について ..... 加藤富美子 6

3 音楽教育の窓

1. 〈連載〉音楽・教育・学校 (17)  
目指してきたこと ..... 田中多佳子 7  
2. 学校音楽セミナー in オーストラリア  
—コダーイ・アプローチによる実際の授業— ..... 牛頭 真也 8  
3. 日本オルフ音楽教育研究会2018年度第31回夏期セミナー  
『音がみえる、動きがきこえる』 ..... 中地 雅之 8

4 会員の声

1. 学校における吹奏楽の現状とこれから ..... 長谷川正規 9  
2. 研究の意義と新しい視点に出会えた学会 ..... 清水 稔 10  
3. 岡山大会に参加して ..... 森 薫 10  
4. 岡山大第49回大会で発表して ..... 中村 昭彦 10  
5. 日本音楽教育学会第49回岡山大会に参加して ..... 白井 奈緒 11  
6. 会員の新聞・近刊等紹介 ..... 11

5 報告

1. 平成30年度総会 ..... 12  
2. 平成30年度第3回常任理事会 ..... 20  
3. 平成30年度第2回理事会 ..... 20

6 事務局より

[編集後記]

# 1 学会からのお知らせ

## 1 日本音楽教育学会第49回大会（岡山大会）報告

大会実行委員会委員長 小川 容子

日本音楽教育学会第49回大会（岡山大会）は、皆様のおかげで、無事、成功裡に終えることができました。甚大な被害をもたらした台風24号に続いて台風25号が発生し、前日の夕方まで開催が危ぶまれておりましたが、奇跡的に台風の進路が外れてくれました。「晴れの国 岡山」の本領発揮というところでしょうか。2日間にわたって、まるで夏日のような晴天に恵まれました。

大会参加者総数440名（正会員331名、賛助会員等16名、臨時会員80名、臨時学生会員13名）もの方々にご来場いただき、プロジェクト研究、基調講演、シンポジウムをはじめ、約80件の口頭発表、約60件のポスター発表、11件の共同企画、そして院生フォーラムを盛り上げていただきました。どの会場も、溢れんばかりの熱気が渦巻いておりました。

大会実行委員会企画では、齊藤昭則氏と大藤剛宏氏を迎えて、「専門性を極める・紡ぐ・繋ぐ」をテーマに、基調講演とシンポジウムをおこないました。地球惑星科学と肺移植という異なる分野・立場から、今まさに、現実の世界で進行しているホットなトピックをご紹介いただき、それぞれの専門性についての考えと、教育にどのように結びつけるのかといった話題を提供していただきました。どちらの話題も、普段私たちが関わっている現場からはなかなか見聞きすることのできない内容でしたが、考え方や姿勢、人・モノ・コトへの対峙の仕方には、音楽教育に携わる私たちと多くの共通点があったように思います。シンポジウムでは、私たちの素朴な疑問に答えていただきながら、分野や領域の垣根をこえて、専門に関わる知識・技術、思考の型、態度等をどのように身につければよいのか、独創性の追求など、話題を広げることができました。「新しい方法を思いつくためには、基礎となる幅広い知識が大事です。」「若いドクターたちに、手術のやり方を教えることはありません。見て覚えてもらう、考えてもらう、それしかありません。」など、示唆に富んだ数々の名言が飛び交いました。詳細は次号の『音楽教育学』でお伝えいたします。

本大会実行委員会は、中国地区全県にまたがる大規模なものとなりました。高橋雅子副実行委員長（山口大学）、早川倫子事務局長（岡山大学）、井本美穂事務局長補佐（岡山理科大学）、古山典子事務局長補佐（福山市立大学）、権藤敦子事務局補佐（広島大学）、三村真弓事務局補佐（広島大学）、安久津太一実行委員（就実大学）、伊藤真実行委員（広島大学）、鈴木慎一朗実行委員（鳥取大学）、藤井浩基実行委員（島根大学）、虫明眞砂子実行委員（岡山大学）、山本宏子実行委員（岡山大学）、吉永早苗実行委員（東京家政学院大学・岡山県立大学）、齊藤武協力員（岡山大学）、長岡功協力員（岡山大学）、諸田大輔協力員（岡山大学）、そして30名以上の献身的な学生スタッフが、八面六臂の大奮闘をいたしました。準備期間は10ヶ月以上にわたりましたが、その間、実行委員全員が一丸となってさまざまな知恵やアイデアを出し合えたことは、私にとってかけがえのない宝物となりました。さらに、今川恭子会長、有本真紀副会長、今田匡彦事務局長はじめ理事の皆様、学会事務局の皆様にもたくさん助けていただきました。この場を借りて、実行委員会の全メンバー、岡山大学関係者、学会事務局関係者、そしてご来場くださった参加者のすべての皆様に、心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。次回の第50回大会は、東京藝術大学で開催されます。あの熱い議論の続きができることを、今から心待ちにしております。

## 2 院生フォーラムを終えて

仙田真帆（兵庫教育大学大学院博士課程）

今大会の院生フォーラムのテーマは、「院生のキャリアパスを考える」でした。リニューアル後初の院生フォーラムとして、企画段階から「院生同士の積極的な意見交換や情報交換の場にしたい」「参加者同士で、情報を共有できる場を創出したい」を常に念頭に置きながら、準備を進めました。その結果、参加者が課程によって4つのグループ（①博士課程、②修士課程、③教職大学院、④現職教員）に分かれて、ディスカッションする方法で進めることにしました。

フォーラムの参加者は約30名であり、現役大学院生はもちろん、卒業生や現職教員、ピアノ講師、大学教員など、様々なキャリアをお持ちの方々にご参加いただきました。グループの席に着くと、自己紹介や近況報告などが自然と始まり、和気藹々とした雰囲気の中で、ディスカッションをスタートすることができました。フォーラムでは、冒頭で企画の趣旨説明がなされた後、各グループのリーダーより検討課題が提案されました。その後、参加者はそれぞれ自分の参加したいグループを選んで、グループディスカッションに取り組みました。さらに、各グループで話し合われたことをフロアに向けて発表し、質疑応答の時間を設けることで、参加者全員が情報を「共有」できるようにしました。

今回の成果は、第一に、グループディスカッションにおいて、参加者同士の意見交換が大変活発に行われたことがあげられます。出てきた意見をどんどんホワイトボードにまとめていくグループ、談笑を交えながら話題を次々と展開していくグループ、とあるメンバーの経験談に真剣に耳を傾けるグループなどそれぞれ形式にとらわれない、まさに「生の声」のやり取りが盛んに行われていたことが印象的でした。約40分間のグループディスカッションを設けていましたが、参加者からは「あっという間の時間だった」「もっと話したいことが沢山あった」等の声が聞かれました。第二に、課程によってグループに分かれてディスカッションをおこなったことで、それぞれの課程における課題がより浮き彫りになった点があげられます。たとえば、修士課程グループの学生は、「結婚」や今後の人生設計を考え始めており、博士課程グループの学生は、現在の仕事と研究の両立や実績づくりに苦心しているなど、それぞれに特徴が見られました。

一方、次年度以降の課題としては、グループ間の意見交換の必要性があげられます。たとえば、今回のフォーラムでは、教職大学院在籍の参加者から現職教員に対して、「教職に就くにあたって、大学院時代に学ぶべきことは何か」といった質問がなされる場面がありました。グループを越えたディスカッションを取り入れることで、フォーラム自体が、情報を「共有」するだけでなく、議論を「深める」場になるのではと期待できます。限られた時間の中で、幅広い意見交換のスタイルをいかにして取り入れていくのか、今後さらに工夫を重ねていきたいと思えます。



【写真】院生フォーラム  
グループに分かれて討論  
した後、発表と質疑を  
行って情報を共有した。

3 第15回音楽教育ゼミナールの報告

石上 則子 (東京学芸大学)  
高須 裕美 (名古屋短期大学)

猛暑が続く2018年8月4日(土)5日(日)に、第15回音楽教育ゼミナール(広尾ゼミナール)が下記の内容で開催された。昨年度に引き続き、国際的に開かれた若手研究者を支援するプログラム「英語で研究を海外に発信しよう!」である。聖心女子大学マリアンホールに30人近くの若い研究者や大学生、大学院生が参集し、松信浩二氏(香港教育大学)の指導のもと、自らの研究テーマに基づいて英語での研究発表の仕方を学び、2日目には実際に英語でプレゼンテーションを行った。

内 容
① 英語でパワーポイントを作成する
② 英語でプレゼンテーションする
③ 英語でペーパーを書く

聖心女子大学マリアンホールに30人近くの若い研究者や大学生、大学院生が参集し、松信浩二氏(香港教育大学)の指導のもと、自らの研究テーマに基づいて英語での研究発表の仕方を学2日目には実際に英語でプレゼンテーションを行った。

松信氏は、惜しみなく資料を提供し、海外へ発信するための研究論文の書き方や投稿の仕方、ポスター発表、プレゼンテーションの方法など、懇切丁寧に指導された。



【写真】松信浩二氏(左)  
V.フォン氏(右)

参加者の研究への情熱や努

力もさることながら、3~4人のグループに分かれ、互いの研究について交流し、英語が堪能な実行委員や先輩の会員のアドバイスを受け、研究テーマ、リサーチクエスチョンなど発表内容を確認し発表に備えたプロセスが、発表の成功を導いたと言えよう。

第1日目午後には、英語を第二言語としてアメリカの大学で働く香港出身の研究者の立場から、フルブライト交流事業の助成で来日中の明治学院大学研究員、ビクター・フォン氏(南フロリダ大学)の講演があった。「流暢な英語で営業をされても製品がお粗末では買わない」という例を挙げながら、国際学会では、「英語」ではなく、その内容に注目しているのだと述べ、「Focus on the quality of your research rather than worrying about your English!」という力強いメッセージがあった。最近の国際的な音楽教育ジャーナルのトピックの動向では、学会などに応募する場合のアブストラクトは、ガイドラインに則って書くこと、発表でのスライド数、話し方、また、アジア人に向けて言葉の理解を深めるために、漢字で表現できる部分には付記する等、これまで氏が工夫されてきたことを紹介された。

以下に参加者の感想を引用したい。

- ・今回のゼミナールで、聞き手にわかりやすく自分の研究をプレゼンテーションするためには、キーワードを明確にし、それらを簡潔にまとめてスライドを作成することが重要であると学んだ。これは、英語だけではなく、日本語の発表でも同じことだと実感した。今後、国内外で行われる学会に積極的に参加し、今回学んだことを生かしていきたい。(外崎 純恵/弘前大学修士)
- ・広尾ゼミナールに参加した二日間は非常に刺激的で、充実したものになりました。英語で発表すること

の重要性やその方法を学ぶことができただけでなく、最新の国際的な研究の動向や、他の参加者の方の興味深い研究について知ることができました。先生方や参加者の方から多くのことを学ばせていただき、今後の研究への大きな励みとなりました。(樋口 史都/広島大学4年)

#### 4 シンポジウム「芸術教育の未来」開催のお知らせ

今川 恭子

日本音楽教育学会と美術科教育学会共同によるシンポジウム「芸術教育の未来」を、下記のように開催します。このシンポジウムは本学会設立50周年のプレ企画としての位置づけをもち、芸術教育が人の生涯にわたってもつ意義を考え、その重要性を発信することを目的とします。子ども参加による造形ワークショップの実施と意見交換、大学生による音楽模擬授業の映像視聴と意見交換、学習科学の専門家によるコメント、シンポジウムなどを予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしております(詳細は同封のチラシをご覧ください)。

[日時] 2019年 3月2日(土曜日) 10時30分～17時30分

[場所] 聖心女子大学(渋谷区広尾)「マリアンホール」(定員400名)

[参加について] 参加費無料。事前の申し込みが必要です。



## 2 委員会からのお知らせ

### 1 編集委員会からのお知らせ

編集委員長 水戸 博道

第4回編集委員会(10月28日開催)では、投稿原稿の採否について審議を行い、次の通り決定しました。『音楽教育学』に投稿され、再査読となっていた研究論文1本が採択されました。また、『音楽教育学』への新規投稿の研究論文4本については、1本が再査読、3本が不採択となりました。同じく新規投稿の研究報告1本は採択となりました。

『音楽教育実践ジャーナル』通巻30号(2019年12月発行)の特集テーマ
次号の特集テーマは、「音楽科教員の養成・採用・研修-その現状と課題-」となりました。多くの原稿の応募をお待ちしております。また、テーマにかかわらず、自由投稿も歓迎いたします。原稿の締め切りは2019年2月15日となります。
次回『音楽教育学』投稿締切
『音楽教育学』の次の締め切りは2019年2月15日となっております。できるだけ多くの方の投稿をお待ちしております。

### 2 国際交流に資する企画の支援について

国際交流委員長 坪能 由紀子

「音楽教育研究・実践の国際交流に資する企画を支援するための内規」が、2018年6月に理事会で決定されました(詳細は日本音楽教育学会ホームページの「学会概要」をご覧ください)。2018年度については、10月1日から3月31日までの間に開催される企画を対象として申請を受け、「新しい音楽教育を考える会」主催により明治学院大学で10月24日に開催された、Chi-Keun Victor Fung氏(南フロリダ大学教諭)講演会の後援を行いました。タイトルは「アメリカにおける創造的な音楽活動の現在」で、これまでのアメリカにおける創造性に関わる研究全体と音楽教育に関わる研究を関係づけながら俯瞰し、またアメリカの様々な創造的な音楽活動の実際を紹介する、大変興味深いものでした。

~~~~~  
2019年度の企画についても、支援申請を受付けています(1月末日締切)。  
~~~~~

### 3 日本音楽教育学会設立50周年記念出版『音楽教育研究ハンドブック』について

設立50周年記念出版編集委員長 加藤 富美子

日本音楽教育学会設立50周年記念出版『音楽教育研究ハンドブック』(音楽之友社刊)は、2019年8月の刊行に向けて順調に編集作業を進めています。公募による実践研究事例も含め、音楽教育研究をさまざまな角度から見通せる先端的で意欲的な原稿が集まり、これからの音楽教育研究に大きな指針をもたらすハンドブックとするべくさらに編集を詰めているところです。

### 3 音楽教育の窓

〈連載〉音楽・教育・学校 (17)

#### 1 音楽教育学と民族音楽学の接点—ワシントン大学に P.S. キャンベル教授を訪ねて

田中 多佳子 (京都教育大学)

「お向かいの韓国から私が手を振っているのが見える？」と、「世界音楽教授法」<sup>注)</sup>を提唱する P.S. キャンベル (Patricia Shehan Campbell) 教授からユーモアたっぷりの返信メールが届いた。2018 年 10 月末から 10 日間ほど、アメリカ合衆国ワシントン州シアトルのワシントン大学音楽学部に教授を訪ね、大学の授業や関連する小学校の授業まで見学させていただく機会を得た。帰国して御礼のメールを送ったところ、多忙をきわめる教授は既に韓国にいたという訳である。本学会設立 20 周年記念の論文集『音楽教育学研究 3』(2000) にも寄稿しているキャンベル教授の存在は音楽教育界では以前から知られていたが、不勉強な私は、昨年度日本音楽教育学会第 49 回大会で、小泉文夫記念音楽賞受賞者としての教授の記念講演を聞いて初めて強く惹きつけられた。私自身は教育学部を卒業したが、その後は音楽学の学位を取得し、長年、インド音楽や楽器を対象とする民族音楽学的研究に携わってきた。しかし、2002 年より教育大学に就職したことから、何の説明もない「音楽」でもなく「我が国の音楽」でもない「諸外国の音楽」の教育についての発言が求められることが増え、自分の立ち位置に悩むようになった。そんな私に「音楽教育学・民族音楽学」の博士号を持ち、職場でも両者の接点に立つ地位にある教授の提唱する「世界音楽教授法」という響きは実に魅力的だった。サバティカルに入ったこともあり、「まずは見てみたい」と、先方の迷惑も顧みず、教授が教鞭をとるワシントン大学に一方的に押し掛けたのである。

事前のやりとりで私の意図を教授は完璧に理解し、朝から晩までびっしりと詰め込まれた私だけの「時間割」を用意して下さっていた。私は初めてのアメリカに到着した翌日、しかも教授に会う前から、それに従ってさまざまな教室に行き観察することになった。音楽教育学や民族音楽学の講義やスチールドラムやゴスペルなどの実技科目も、大学院生のゼミや学会発表リハーサルもあった。授業時間は、講義は 50 分、実技科目は 90 分ほど、大学院のゼミは 2～3 時間ほどの徹底的討論だった。“Ethno in Schools” というキャンベル教授の講義は週 2 回で滞在中に 4 回見学したが、最初の 3 回は香港から招聘された中国人教授による広東オペラに関する講義だった。4 回目の教授自身による授業は、アフリカ音楽を教材とし WMP の公式にそって教授自身が学生対象に模擬授業のような実践をした後、詳しい解説を施すというものだった。

教授が信頼を寄せる博士課程の学生ジュリアナが音楽教師を務める小学校での授業も見学させてもらった。立派な学舎があるのにプレハブ教室、授業時間 30 分と、ここでも「音楽科」は冷遇されていると感じたが、ジュリアナは WMP の公式に沿って実に楽しい授業を展開し、子どもたちを魅了していた。

超多忙なキャンベル教授とは結局、滞在中各 1 時間ほど 2 回しか話せなかったが、滞在中のあらゆる体験や情報を通じて、教授の子どもたちと音楽への深い愛情と温かい眼差しと共に、教授を知るあらゆる人々が言うように、人としての素晴らしさに感動させられつつ、様々な発見や新たな課題に満ちた刺激的な旅であった。

注) “World Music Pedagogy” 金光真理子による和訳(「P. キャンベルの世界音楽教授法—その利点と課題」『横浜国立大学教育人間科学部紀要』18, 2016:1-19)。通常 WMP と略。内容については稿を改めて報告する。

## 2 学校音楽セミナー in オーストラリア—コダーイ・アプローチによる実際の授業—

牛頭 真也 (洗足学園音楽大学, 横浜市立篠原小学校)

2018年8月20日(月)～24日(金)の5日間、オーストラリアのブリスベン市にある St. Aidan's Anglican Girls School を訪問し、コダーイ・アプローチによる実際の授業を参観した。こちらの学校では、国際コダーイ協会会長であるジェームズ・カスケリー氏が音楽授業を行なっている。カスケリー氏は、3-4歳児クラス、3, 5, 8, 10年生(日本では小学3年, 5年, 中学2年, 3年相当)クラスの担当である。他の学年は2名の音楽教師が、いずれもコダーイ・アプローチによる授業を行なっている。今回の研修では、カスケリー氏と、カーラ・トロット氏(5歳児クラス, 1, 2, 4, 7年生を担当)の授業を中心に参観した。

カスケリー氏の授業は、教師の歌いかけと生徒の応答による挨拶ではじまる。その後、授業終了まで6-10種類の活動を行うが、歌うことを通して流れのある授業になっている。児童生徒の発達段階や能力、また集中力に配慮して、緻密に授業が考えられている。私は、音楽(楽譜)の読み書き、聴音など児童生徒のレベルの高さに驚いた。これらの学習の土台となっているのが、「わらべうた」である。「わらべうた」を教材として扱い、学年に応じて学ぶ課題を変えている。カスケリー氏の音楽の専門性、指導力のほか、児童生徒一人ひとりを大切にする姿もあり、皆、積極的に集中して、毎日音楽の授業を受けていた。授業参観以外に、カスケリー氏による「Musicianship」の特別授業を、研修参加者全員が受けることができた。



日本からの参観者に特別授業をする  
J. カスケリー氏

この研修は、尾見敦子氏(川村学園女子大学教授)が企画し、日本から総勢13名が参加した。帰国後、研修での学びを継続し深めるために、定期的に勉強会を行なっている。

## 3 日本オルフ音楽教育研究会 2018年度第31回夏期セミナー

『音がみえる、動きがきこえる』

中地 雅之 (東京学芸大学)

本研究会では、毎年1回の夏期セミナーと3回の例会を開催している。31回目となる今回のセミナーは、8月8・9日に白百合女子大学で開催された。台風が関東に上陸し、1日目の時間を多少短縮したが、夜間に台風が通過し無事終了することができた。夏期セミナーでは、オルフの理念と関連する、あるいは展開の可能性をもった活動を行っているゲスト講師を招き、オルフ・シュールヴェルク(OSW)の日本での展開と会員の教育観・芸術観を広げる全体会を行っている。OSWでは、オルフの作品に見られるように、〈音楽〉と〈動き〉や〈ことば〉と関連した表現・教育活動が行われる。これまでに、谷川俊太郎氏、はせみつこ氏、バロック・ダンス、ロバの音楽座など、またアジアの音楽、和太鼓・箏・尺八・能楽・ガムランなどを取り上げてきている。

本年は、パントマイムの細川絃未氏を講師にお招きし「初めてのパントマイム～心と体であそぼう～」という全体会を行った。音楽とコラボしたパントマイム、動きの〈エレメンタル〉を追求する身体表現の世界に親しむことができた。この他に、会員による5つのワークショップを実施した。また、「現場で活かすオルフの音楽教育」というテーマでシンポジウムを行い、様々な教育の現場でどのようにOSWが展開されているか報告があった。最後のディスカッションでは、ワールド・カフェ方式で、参加者がそれぞれセミナーの内容を省察した。近年では、OSWのことを知りたいという非会員の参加が増えており、セミナーでは「初めての方に」という導入のワークショップを設けている。これらの内容は、年1回発行される会報『音と動きの研究』に収録され、会報にはさらに論文、実践報告などが掲載されている。詳細は研究会のHPをご参照頂きたい。<https://www.orff-schulwerk-japan.com/>

## 1 学校における吹奏楽の現状とこれから

長谷川正規（上越教育大学）

1869年、薩摩藩の藩士たちがイギリスの軍楽隊長フェントンに学んだことが、日本における吹奏楽の発祥とされています。2019年はそれから150年目の記念の年です。当時は楽器もなく、楽譜を読むことにも相当苦労したはずですが、今や日本は吹奏楽大国に成長しています。全日本吹奏楽連盟に加盟している団体数は2017年10月現在でなんと14,133、この連盟に参加していない団体も考慮すると、実際はさらに多いはずですが。この盛り上がり大きく貢献しているのはやはり学校の吹奏楽で、例えば中学校の団体数は7,206となっています。2017年に行われたスポーツ庁の「運動部活動等に関する実態調査」では中学校で文化部に所属する生徒は19%、さらにその活動種別では吹奏楽が47.2%と示されており、中学生の約9%が吹奏楽部に所属している計算です。

私の所属する大学にも吹奏楽団があり、40名程度が所属しています。団員の音楽歴をみると、中学・高校と楽器を継続してきた学生を中心に、小学校以来という学生、大学で未経験の楽器に挑戦する学生と様々です。大学生が幅広い年代の方々と関わっているのが特徴で、日常的に小学生から高校生までを対象とした楽器指導を行いながら、70代の方まで在籍する市民吹奏楽団と一緒に演奏することもあ



大学生の練習風景

ります。吹奏楽が生涯学習としても非常に充実していることをいつも実感させられます。

吹奏楽の魅力は、その「雑食性」にもあると感じています。つまり、レパートリーが非常に多彩なのです。吹奏楽のための作品はもちろんのこと、オーケストラの名作、ジャズ、ロック、演歌といったあらゆるジャンルの音楽が、一つの演奏会に詰め込まれることもよくある話です。平成生まれの子どもたちが、それまで知らなかったはずの昭和歌謡を演奏して、地域の方々に喜んでもらえる、という光景は吹奏楽ならではのものでしょう。

一方で課題も山積しています。学校においては、練習時間の長時間化や教員の負担感といった部活動全体に関する問題があり、それは吹奏楽にも共通するところですが。新潟県の加茂市では今年、土日祝日に加えて平日も週1回の休みを設定することや、夏休みなどの部活動も原則として休止する方針が打ち出されました。また少子化により、思い通りの編成で活動できない団体も見られます。10人程度のごく小さな編成のためのレパートリーも見かけるようになってきましたが、今後さらに求められることになりそうです。私のゼミでも、学校における吹奏楽の研究を希望する学生が急激に増えており、やはり「練習の効率化」「小編成」というキーワードが頻出しています。この150年間で積み上げられてきた魅力ある吹奏楽の文化を継続させ、発展させるためにも、この分野の研究をより充実させていく必要性を強く感じています。

## 2. 研究の意義と新しい視点に出会えた学会

清水 稔(弘前大学)

各発表における様々な研究主題や実践，専門性について問いかけた基調講演，今後を見据えたプロジェクト研究，それらは，今後の研究に新しい視点を与えてくれるものでした。人間の側から事象を見る以上，認識世界は，反転したときに見えなかったことが見え，再び，地に戻ったときの感覚は，同じ景色でも，異なる捉え方になります。ユニヴァーサルデザインの発表での，「新しいことをつくり出していくからデザインだ」という言葉が印象的でしたが，未だ無いことに気付けるのは，在ることに気付く〈出会い〉と，そこで得た〈眼差し〉であると思います。

今回は，そのような「見えない景色が見えるようになり，失われるかもしれない未来を手にする」という研究の意義についても改めて考えさせられる大会でした。自身の研究の目が見ていることについて反省し，新しい視点に出会えるのが学会の良いところです。運営の方々，発表・参加されたの方々，岡山という環境と，すべてに感謝とお礼を述べたいと思います。

## 3. 岡山大会に参加して

森 薫(東京未来大学)

私にとって学会大会の楽しみは，お名前と文章のみを拝見してきた先生方に，直接お目にかかることだ。子どもたちの姿が生き生きと描かれたあの記事の執筆者，私には思いもよらない視点で書かれた切れ味鋭いあの論文の著者……今回の岡山大会でもそうした方々の研究発表をご本人の語り口とも拝聴し，ご研究をぐっと身近に感じたり，思い切って質問をさせて頂いたり，多くの得がたい経験をすることができた。

自分自身の発表は今大会では共同企画で行った。研究テーマの面でも発表構成の面でも新たな試みをすることができた一方，さまざまなご質問・ご意見を頂いて今後の研究課題が見つかり，収穫となった。学会から帰った後は，色々な先生方の論文やレジュメをあらためて読み直し，お顔を思い浮かべて，次回に向けてこんなことを調べてみたい，あんな話をしてみたい，などと思いをめぐらす。もしかすると，そうしたモチベーションを頂けることが，学会大会に参加するもうひとつの大きな楽しみなのかもしれない。

## 4. 岡山大第49回大会で発表して

中村 昭彦(東京学芸大学大学院生・小田原短期大学)

私は第46回宮崎大会から毎年参加していて，今回で4回目になりました。もともと作曲を専攻していたのですが，宮崎大会で初めて参加し，音楽教育に関するアカデミックな空気を感じて，私もこの場で発表したいと強く思ったことを今でも覚えています。

さて，今回の大会ではプロジェクト研究「学校と社会を結ぶ音楽教育Ⅱ」において，共同で発表させて頂きました。発表内容は，これまで殆ど行われてこなかった TAS モデルの授業実践に関する分析

研究です。TAS モデルとは、子どもと教師が主体となり、音楽家たちがそれをサポートする活動の形を基本として、① Teacher, ② Adviser (作曲家や研究者など), ③ Supporter (演奏家や学生など) の3者が協同して行う学校と社会の連結を目的とした授業のフレームワークです。私の担当は、情意ベクトルによる授業評価からの検討で、授業後のアンケート調査の結果から情意ベクトル図を作成し、「楽しかった」「難しかった」など、子たちが情意的にどのような反応を示したのかを調査しました。発表後に頂いた意見を参考に、今後も研究を進めていきたいです。

### 5 「日本音楽教育学会第 49 回岡山大会に参加して」 白井 奈緒(湊川短期大学)

昨年に引き続き、台風接近にハラハラしながら岡山に向かう準備をしましたが、両日とも好天に恵まれ、諸先生方の貴重な発表に刺激をいただき、とても充実した二日間となりました。

今年は私自身、日本音楽教育学会に入会させていただいてから 4 回目の大会参加で、少し心境の変化がありました。それは年に一度の大会を通してお知り合いになれた先生方との再会と、さらに新しい先生方との出会いを心から楽しめたこと、そして、継続して参加させていただいているからこそ味わえる、先生方の研究その後(最新情報)に触れる喜びを実感したことです。

今までは正直、過度の緊張で学会を楽しむ心のゆとりがなかったのですが、私にとっては程よい緊張と居心地の良さが共存する、とても刺激的で学びと感動の多い岡山大会でした。皆勤賞を目指し、来年の東京大会を目標に、また半歩ではありますが研究をすすめていきたいと思えます。

ご準備いただいた先生方、本当にありがとうございました。

## 6 会員の新刊・近刊等紹介

### ★阪井 恵・酒井 美恵子著『音楽授業のユニバーサルデザイン はじめの一歩』

明治図書 2018 年 10 月 A5 判・128 頁 ISBN978-4-18-148414-9, 2060 円+税

本書は音楽授業のユニバーサルデザインに関する日本で最初の書籍です。音楽の得意な我々には想像しにくい「困りごと」に悩む児童生徒の、なんと多いことか。皆さま、まずそれを知ってください。

### ★後藤 丹作曲『ピアノ曲集「風透る街に」[楽譜]

明治図書 2018 年 10 月 A5 判・128 頁 ISBN978-4-18-148414-9, 2060 円+税

21 曲のピアノ小品集で、ソナチネ・アルバム程度の難易度。子どもから大人までが親しめる曲想となっている。作曲者によると「風透る街」は軽井沢をイメージしており、街の印象深い風物が題材となっている。

---

## 5 報 告

---

### 1 平成 30 年度総会

日時：平成 30 年 10 月 6 日（土）17:40-18:30

場所：岡山大学 5202 [講義棟]

開催に先立ち、今田匡彦事務局長より、出席者 87 名、委任状 322 通、合計 409 名であるところが報告された。会則 13 条に基づき、会員総数の 5 分の 1 の定足数（318 名）を満たしていることにより、総会の成立が確認された。

1. 開会の辞 有本真紀副会長
2. 会長挨拶 今川恭子会長
3. 議長選出 菅裕会員（宮崎大学）が選出された。

#### 4. 報告事項

##### (1) 会務報告（今田事務局長）

総会資料に基づいて、平成 29 年 12 月 23 日から平成 30 年 10 月 6 日までの会務報告があった。

##### (2) 各委員会から

###### ・編集委員会（水戸博道委員長）

『音楽教育実践ジャーナル』の進捗状況、及び『音楽教育学』への研究論文発掘についての報告があった。

###### ・選挙管理委員会（味府美香副委員長）

2 月に学会事務局において第 1 回委員会が開催予定であることが報告された。

###### ・国際交流委員会

10 月 20 日（土）15:00 より明治学院大学白金校にて開催予定の、サウスフロリダ大学教授 Chi-Keung Victor Fung 氏講演会についての報告があった。

###### ・広報委員会（奥忍委員長）

ニューズレター 74 号の編集方針と原稿協力依頼があった（原稿締め切りは 11 月 13 日）。

###### ・音楽文献目録委員会（今田事務局長）

新委員の紹介、定期購読数、広告数減少などへの打開策としての助成金獲得、WEB 版への移行等についての活動報告があった。

##### (3) 50 周年記念出版について（加藤富美子会員）

進捗状況（8 月 30 日締め切りの依頼原稿、9 月 20 日締め切りの公募採択原稿、レイアウトや書式を整える作業等）についての報告があった。

##### (4) 学会設立 50 周年プレ企画について（今川会長）

2019 年 3 月 2 日（土）10:30 から、聖心女子大学にて開催予定の上記企画について、美術科教

育学会との連携、文化芸術教育、生涯教育に関する模擬授業やシンポジウム等、趣旨説明があった。

(5) 第 15 回音楽教育ゼミナール（広尾ゼミナール）について（坪能由紀子常任理事）

2019 年 8 月 4、5 日に聖心女子大学にて開催された上記ゼミナールについて、サウスフロリダ大学教授 Chi-Keung Victor Fung 氏による基調講演、27 名の参加者と講師によるゼミナールの内容等詳細な報告があった。

(6) 学会法人化検討ワーキングについて（北山敦康常任理事）

H30 年理事会で検討課題となった学会の法人化について、他学会の状況や法人化にするメリット・デメリットなどについての詳細な報告があった。将来的には法人化するべきという認識に立って、学会運営の電子化・会計処理・定款の 3 つの問題点が今後の課題として指摘された。

(7) ISME の制度改革について（村尾忠廣国際渉外会長特命理事）

制度改革に伴って、従来の National Affiliate がパートナーシップ制度に変更され、日本音楽教育学会が ISME パートナーシップ会員として現在登録申請中であることが報告があった。

(8) その他（水戸理事）

情報化への対応として、査読システム、会員情報のデータベース化等、学会運営電子化検討ワーキンググループ立ち上げについての報告があった。

## 5. 審議事項

(1) 平成 29 年度会計報告・監査報告（島崎篤子常任理事）・監査報告（佐野靖前会計幹事）

大会プログラム掲載資料に基づき、平成 29 年度一般会計、その他会計について会計報告が行われた。監査の結果、間違いのないことが報告され、承認された。(p.11【資料 1】)

(2) 平成 30 年度事業計画（今田事務局長）および補正予算（島崎常任理事）

総会資料に基づき、平成 30 年度事業計画の日付確定が報告され、承認された。(p.12【資料 2】)  
大会プログラム掲載資料に基づき補正予算についての説明があり、承認された。(p.13【資料 3】)

(3) 平成 31 年度事業計画（今田事務局長）

総会資料に基づいて説明があり、承認された。(p.14【資料 4】)

(4) 平成 31 年度予算について（島崎常任理事）

大会プログラム掲載資料に基づいて説明があり、承認された。(p.15【資料 5】)

(5) 『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定の改定について（水戸編集委員長）

総会資料に基づいて説明があり、承認された。(p.15【資料 6】)

(6) 第 50 回大会について（今川会長）

東京藝術大学 平成 31 年 10 月 19 日（土）、20 日（日）（予定）開催が提案され、承認された。

(7) 第 51 回大会候補地について (今川会長)

京都教育大学で開催される予定であることが報告され、承認された。

(8) APSMER の日本開催について (水戸 APSMER 委員)

APSMER/ISME Regional Conference 2021 の日本開催について、日本音楽教育学会の主催とすることが提案され、承認された。

6. 議長解任

7. 閉会の辞 (有本副会長)

【資料 1】

平成 29 年度会計報告

I 一般会計

取 入			支 出		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
前年度繰越金	6,051,650	6,051,650	大会運営費	2,150,000	2,050,868
正会員会費※	10,864,000	10,986,000	大会実行委員会経費	700,000	700,000
(次年度会費)		56,000	事務局経費	1,250,000	1,152,198
学生会員会費	8,000	12,000	プロジェクト研究	200,000	198,670
団体会員会費	40,000	40,000	学会誌費	2,600,000	2,315,268
賛助会員会費	300,000	300,000	音楽教育学発行費	1,665,000	1,547,592
学会誌売上金	200,000	672,180	実践ジャーナル発行費	935,000	767,676
本誌代		621,500	ニューズレター費	350,000	322,990
送料収入		50,680	例会運営費	620,000	648,468
大会参加費	1,400,000	1,688,000	通信・郵送費	1,200,000	1,095,588
その他	20,000	1,166,211	会議費	20,000	10,261
大会実行委員会返金		975,101	旅費・交通費	1,750,000	1,661,909
例会運営費返金		191,099	翻訳費	20,000	5,000
雑収入		11	事務局費	4,837,000	4,394,253
			事務費	600,000	429,871
			運営費	2,321,000	1,683,862
			人件費	1,880,000	2,245,220
			事務局員保険費	36,000	35,300
			分担金	295,000	210,000
			選挙積立金	300,000	300,000
			ゼミナール・ワークショップ基金	150,000	150,000
			国際交流基金	150,000	150,000
			研究出版基金	100,000	100,000
			学会基金	600,000	600,000
			予備費	3,741,650	263,125
			小 計	18,883,650	14,277,730
			次年度繰越金		6,638,311
計	18,883,650	20,916,041	計	18,883,650	20,916,041

その他会計

II 研究出版基金 現在高 ¥3,678,784 (① - ②)

収入	平成 28 年度までの積立金	¥3,713,960		
	平成 29 年度積立金	¥100,000		
	利息	¥32	¥3,813,992	①
支出	50 周年ハンドブック編集委員会交通費	¥135,208	¥135,208	②

**Ⅲ 学会基金** 現在高 ¥1,985,275 (① - ②)

取入	平成 28 年度までの積立金	¥2,015,543		
	平成 29 年度積立金	¥600,000		
	利息	¥20	¥2,615,563	①
支出	J-STAGE パックナフ - 搭載費 (音楽教育学)	¥263,520		
	J-STAGE パックナフ - 搭載費 (音楽教育実践ジャーナル)	¥365,472		
	振込手数料	¥864		
	残高証明手数料	¥432	¥630,288	②

**Ⅳ ゼミナール・ワークショップ基金** 現在高 ¥1,169,632 (① - ②)

取入	平成 28 年度までの積立金	¥1,348,411		
	平成 29 年度積立金	¥150,000		
	利息	¥11	¥1,498,422	①
支出	第 8 回夏季ワークショップ	¥328,358		
	振込手数料	¥432	¥328,790	②

**Ⅴ 国際交流基金** 現在高 ¥430,355 (① - ②)

取入	平成 28 年度積立金	¥280,352		
	平成 29 年度積立金	¥150,000		
	利息	¥3	¥1,498,422	①
支出	韓国音楽教育学会関係	¥0	¥0	②

**Ⅵ 選挙積立金** 現在高 ¥85,384 (① - ②)

取入	平成 28 年度までの積立金	¥301,954		
	平成 29 年度積立金	¥300,000		
	利息	¥1	¥601,955	①
支出	第 23 期選挙	¥516,571	¥516,571	②

◎ 平成 29 年度決算を上記の通り報告いたします。

平成 30 年 4 月 28 日 会計担当 島崎 篤子 

寺田 貴雄 

◎ 上記の通り相違ないことを監査いたしました。

平成 30 年 4 月 28 日 会計監事 佐野 靖 

嶋田 由美 

## 【資料 2】

## 平成 30 年度事業計画案

平成 30 年	4 月 8 日	平成 30 年度第 1 回編集委員会
	4 月 28 日	平成 29 年度会計監査会
	4 月 29 日	平成 30 年度第 1 回常任理事会・理事会
	5 月 13 日	平成 30 年度第 2 回編集委員会
	5 月 20 日	ニュースレター第 72 号発行
	5 月 31 日	第 49 回大会発表申込締め切り
	6 月 8 日	第 49 回大会研究発表受理通知
	6 月 24 日	平成 30 年度第 2 回常任理事会
	8 月 4-5 日	第 15 回音楽教育ゼミナール (広尾ゼミナール)
	8 月 11 日	平成 30 年度第 3 回編集委員会

平成 31 年	8月18日	ニュースレター第73号発行
	8月31日	『音楽教育学』第48巻第1号・第49回大会プログラム 発行・発送
	10月5日	平成30年度第3回常任理事会・第2回理事会
	10月6-7日	第49回大会・総会 会場：岡山大学
	10月28日	平成30年度第4回編集委員会
	12月31日	『音楽教育実践ジャーナル』vol.16発行 ニュースレター 第74号発行
	2月中旬	平成30年度第5回編集委員会
	2月24日	平成30年度第4回常任理事会
	3月下旬	ニュースレター第75号 発行 『音楽教育学』第48巻第2号 発行
	3月末日	平成30年度会計決算

【資料3】

平成30年度補正予算

I 一般会計

収入		支出	
科目		科目	
前年度繰越見込金	6,638,311	大会運営費	2,150,000
正会員会費※1	10,990,000	大会実行委員会経費	700,000
	7,000 × 正会員実数1,570 ※2	事務局経費	1,250,000
学生会員会費	16,000	ブシロ研究	200,000
団体会員会費	40,000	学会誌費	2,600,000
賛助会員会費	300,000	音楽教育学発行費	1,665,000
学会誌売上金	300,000	実践ジャーナル発行費	825,000
本誌代		ニュースレター費	350,000
送料収入		例会運営費	640,000
大会参加費	1,400,000	通信・郵送費	1,200,000
その他	20,000	会議費	20,000
大会実行委員会返金		旅費・交通費	1,750,000
例会運営費返金		翻訳費	20,000
雑収入		事務局費	4,970,800
		事務局費	600,000
		人件費	2,450,000
		事務局運営費	1,800,000
		事務局員保険費	40,800
		分指金	295,000
		選挙積立金	350,000
		ゼミナル/ワーショップ基金	300,000
		国際交流基金	300,000
		研究出版基金	200,000
		学会基金	900,000
		予備費	3,658,511
計	19,704,311	計	19,704,311

※1 特別会員2名を含む。

※2 正会員実数は8月6日現在。

## 平成30年度その他会計

<b>Ⅱ 研究出版基金</b>		43,378,784	↑ ②
<b>収入</b>			
平成29年度までの積立金	40,370,784		
平成30年度積立金	490,000	43,378,784	↓
<b>支出</b>			
50周年記念出版費	490,000	490,000	②
<b>Ⅲ 学会基金</b>		41,385,275	↑ ②
<b>収入</b>			
平成29年度までの積立金	41,385,275		
平成30年度積立金	490,000	42,885,275	↑
<b>支出</b>			
会費	490		
名簿作成費	490,000		
プレ50周年シンポジウム	490,000	490,000	②
<b>Ⅳ セミナール・ワークショップ基金</b>		41,469,632	↑ ②
<b>収入</b>			
平成29年度までの積立金	41,469,632		
平成30年度積立金	490,000	42,469,632	↑
<b>支出</b>			
セミナー補助費	490,000	490,000	②
<b>Ⅴ 国際交流基金</b>		4730,355	↑ ②
<b>収入</b>			
平成29年度までの積立金	4400,355		
平成30年度積立金	490,000	4900,355	↓
<b>支出</b>			
国際交流促進事業費	490,000	4900,355	②
<b>Ⅵ 迎平積立金</b>		4435,384	
<b>収入</b>			
平成29年度までの積立金	405,384		
平成30年度積立金	490,000	4435,384	

【資料4】

## 平成31年度事業計画

2019年	4月中旬	平成30年度会計監査会
	5月初旬	平成31年度第1回常任理事・理事会
	5月中旬	平成31年度第1回編集委員会
	6月中旬	第50回大会研究発表・共同企画申込締切
	6月下旬	ニュースレター第76号発行
	6月下旬	第50回大会研究発表受理通知
	7月初旬	第24期会長・理事選挙投票締め切り
	7月中旬	平成31年度第2回常任理事会

	8月上旬	平成31年度第2回編集委員会
	8月	ワークショップ
	8月下旬	ニュースレター 第77号発行
	8月末日	『音楽教育学』第49巻第1号発行
	8月末日	第50回大会プログラム発送
	10月	平成31年度第3回編集委員会
	10月	平成31年度第3回常任理事会・第2回理事会 会場：東京藝術大学
	10月	第50回大会・総会 会場：東京藝術大学
	12月27日	ニュースレター第78号発行
	12月31日	『音楽教育実践ジャーナル』vol.17発行
2020年	2月中旬	平成31年度第4回編集委員会 平成31年度第4回常任理事会
	3月22日	ニュースレター第79号発行
	3月31日	『音楽教育学』第49巻第2号発行
	3月末日	平成31年度会計決算

【資料5】

平成31年度予算

I 一般会計

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越見込金	3,658,511	大会運営費	2,150,000
正会員会費※1	10,990,000	大会実行委員会経費	700,000
	7,000×正会員実数1,570※2	事務局経費	1,250,000
学生会員会費	16,000	プロジェクト研究	200,000
団体会員会費	40,000	学会誌費	2,600,000
賛助会員会費	300,000	音楽教育学発行費	1,665,000
学会誌売上金	300,000	実践ジャーナル発行費	935,000
本誌代		ニュースレター費	350,000
送料収入		例会運営費	640,000
大会参加費	1,400,000	通信・郵送費	1,200,000
その他	20,000	会議費	20,000
大会実行委員会返金		旅費・交通費	1,750,000
例会運営費返金		翻訳費	20,000
雑収入		事務局費	4,970,800
		事務費	600,000
		人件費	2,450,000
		事務局運営費	1,880,000
		事務局員保険費	40,800
		分担金	295,000
		選挙積立金	200,000
		ゼミナール/ワークショップ基金	50,000
		国際交流基金	100,000
		研究出版基金	100,000
		学会基金	200,000
		予備費	2,078,711
計	16,724,511	計	16,724,511

※1 特別会員2名を含む。

※2 正会員実数は6月6現在。

## その他会計

## II 研究出版基金 2,978,784 ①-②

収入	平成 30 年度までの積立金	¥3,378,784		
	平成 31 年度積立金	¥100,000	¥3,478,784	①
支出	50 周年記念出版編集費	¥500,000	¥500,000	②

## III 学会基金 2,035,275 ①-②

収入	平成 30 年度までの積立金	¥1,985,275		
	平成 31 年度積立金	¥200,000	¥2,185,275	①
支出	学会賞	¥50,000		
	50 周年記念シンポジウム	¥100,000	¥150,000	②

## IV ゼミナール・ワークショップ基金 1,119,632 ①-②

収入	平成 30 年度までの積立金	¥1,169,632		
	平成 31 年度積立金	¥50,000	¥1,219,632	①
支出	ワークショップ補助金	¥100,000	¥100,000	②

## V 国際交流基金 630,355 ①-②

収入	平成 30 年度までの積立金	¥630,355		
	平成 31 年度積立金	¥100,000	¥730,355	①
支出	国際交流促進事業費	¥100,000	¥100,000	②

## VI 選挙積立金 135,384 ①-②

収入	平成 30 年度までの積立金	¥435,384		
	平成 31 年度積立金	¥200,000	¥635,384	①
支出	第 23 期選挙	¥500,000	¥500,000	②

## 【資料 6】

## 『音楽教育学』投稿規定

改定後	現 行
I 投稿資格	I 投稿資格
1. 投稿者は、本会正会員、名誉会員、特別会員に限る。ただし共同執筆の場合の筆頭者以外については、この限りではない。	1. 投稿者は、本会正会員、名誉会員、特別会員に限る。ただし共同執筆の場合の筆頭者以外については、この限りではない。
2. 正会員、特別会員については、当該年度の会費が納入されていることが求められる。	2. 正会員、特別会員については、当該年度の会費が納入されていることが求められる。
3. 新入正会員と新入特別会員については、入会と同時に投稿できるものとする。	3. 新入正会員については、入会と同時に投稿できるものとする。

## 『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定

改定後	現 行
I I 投稿資格	I I 投稿資格
1. 投稿者は、本会正会員、名誉会員、特別会員に限る。ただし共同執筆の場合の筆頭者以外については、この限りではない。	1. 投稿者は、本会正会員、名誉会員、特別会員に限る。ただし共同執筆の場合の筆頭者以外については、この限りではない。
2. 正会員、特別会員については、当該年度の会費が納入されていることが求められる。	2. 正会員、特別会員については、当該年度の会費が納入されていることが求められる。
3. 新入正会員と新入特別会員については、入会と同時に投稿できるものとする。	3. 新入会員については、入会と同時に投稿できるものとする。

## 2 平成 30 年度第 3 回常任理事会

日時：平成 30 年 10 月 5 日（金）14:00～15:00

場所：岡山大学教育学部本館 4 階 第 1 会議室

出席：今川，有本，今田，小川，北山，佐野（記録），島崎，坪能，藤井

今回の常任理事会は、学会大会前日に理事会とともに開催されたため、理事会と共有する議題の審議は省略し、下記の 3 つの事項に限定して審議を行った。

### 【審議事項】

#### 1. 第 50 回大会について（佐野）

東京藝術大学において、2019 年 10 月 19 日（土）、20 日（日）に開催するという提案が承認された。

#### 2. 第 50 回大会常任理事会企画について（坪能）

坪能理事より 2 つの企画が提案されたが、パトリシア・シェハン・キャンベル氏を招聘し、岩井智宏氏（桐蔭学園小学部）の授業実践と連携する企画が承認された。もう一つの提案、バシエの音響彫刻を用いる企画については、常任理事企画として第 51 回大会での実施の可能性を再検討することになった。

#### 3. 学会法人化検討ワーキングについて（北山）

北山理事より、WG 委員（4 名）による検討内容が報告され、関連団体の動向、学会法人化のメリットとデメリットなどの詳細が資料で示された。WG からの報告を受けて常任理事会・理事会で審議し、その経過報告を総会で行い、会員から広く意見や情報の提供を求め、最終的には、平成 30 年度最後の理事会において一定の方針を決定することになる。議論の結果、いずれは法人化に向かうことになるという認識は共有できているが、予算や事務局体制など解決すべき課題も多い。それぞれの課題についてさらに検討を深める必要がある。今川会長からは、持続可能な学会運営のために、できるところ（例えば、定款の改定など）から準備を進めることを会員に伝えるとの意思表示がなされた。

<今後の会議予定>

平成 30 年度 第 4 回常任理事会 日時：平成 31 年 2 月 17 日 14 時～ 場所：聖心女子大学

## 3 平成 30 年度第 2 回理事会

日時：平成 30 年 10 月 5 日（金）15:00～17:00

場所：岡山大学教育学部本館 4 階 第 1 会議室

出席：今川，有本，今田，小川，奥，北山，佐野，島崎，坪能，寺田，日吉，藤井，水戸，南，村尾，山崎

記録：南

## 【会務報告】(4月29日～10月5日)

5月13日	第2回編集委員会(学習院大学)
5月31日	第49回大会発表申込締切
5月20日	ニュースレター第72号発行
6月8日	第49回大会研究発表受理通知
6月24日	第2回常任理事会(聖心女子大学)
8月4-5日	第15回音楽教育ゼミナール(広尾ゼミナール)
8月11日	第3回編集委員会(学習院大学)
8月18日	ニュースレター第73号発行
8月31日	『音楽教育学』第48巻第1号・第49回大会プログラム 発行・発送
10月5日	平成30年度第3回常任理事会・第2回理事会(岡山大学)

## 【審議事項】

## 1. 総会議題の確認(今田)

総会資料にもとづき総会議題の確認を行い、了承された。

## 2. 平成30年度補正予算,平成31年度予算について(島崎・寺田)

平成30年度補正予算資料にもとづき、名目毎に説明があり、了承された。現時点で270名が学会費未納であり、そのうち70名が2年未納であると報告された。過年度未納者にたいしては推薦者に協力を求めるなどの対策が必要との意見があった。国際交流基金については、会員による国際企画の後援や共催等について、補助金の申請が可能になったことが確認された(詳細は学会HP参照)。

また平成31年度予算案についても資料にもとづき、名目毎に説明があり、承認された。

## 3. 『音楽教育学』投稿規定の改正について(水戸)

投稿規定の改正についてはニュースレターで報告済みなので、今回の総会資料から除外することにした。編集委員会規定の改定については研究動向が査読になったことを総会で報告する。

## 4. 第50回大会について(佐野)

東京芸術大学にて2019年10月19日(土)・20日(日)に開催することが確認された。

## 5. 第50回大会常任理事会企画について(坪能)

坪能理事から2つの企画が提案された。詳細は常任理事会記録参照。

## 6. 50周年プレ企画について(今川)

2019年3月2日(土)10:30から終日、聖心女子大学にて開催が予定されている。美術科教育学会とも連携し、模擬授業やシンポジウムを通して我が国の文化芸術教育を中心とした生涯学習の在り方を考える会にしたいと趣旨説明があった。12月にはチラシを発行し、会員に参加を呼びかけるよう総会で報告する。

## 7. 第9回夏季ワークショップについて(今田・坪能)

来年度のワークショップについて、今田・坪能会員を中心に若手研究者に広く呼びかけ、遅くとも3月発送のニュースレターで企画および参加者募集のアナウンスをすることが了承された。



## 【報告事項】

## 1. 第15回音楽教育ゼミナール（広尾ゼミナール）報告（坪能）

8月4日に聖心女子大学にて南フロリダ大学教授 Chi-Keung Victor Fung 氏を招き、開催された。参加者は27人であった。グループ活動による院生交流が闊達に行われ、若い研究者にとって来年日本で開催予定の APSMER に参加するよい契機になった。

## 2. 設立50周年記念出版について（加藤→今川, 佐野）

8月30日締切の依頼原稿、9月20日締切の公募採択原稿がほぼ届いており、レイアウトや書式を整える作業を行っている。

## 3. 国際企画の後援について（坪能）

ホームページに記載された通り、10月20日（土）15:00より明治学院大学白金校において、南フロリダ大学教授 Chi-Keung Victor Fung 氏の講演会を行う。

## 4. 各委員会等報告

## (1) 編集委員会（水戸）

『音楽教育実践ジャーナル』を入稿中である。『音楽教育学』の採択件数が減少しているの、よい研究論文の発掘を呼び掛けたい。

## (2) 国際交流委員会（坪能）

特記事項なし

## (3) 広報委員会（奥）

ニュースレター74号割付計画と原稿協力依頼があった。原稿締め切りは11月13日である。

## (4) 選挙管理委員会（水崎→今田）

2019年2月に学会事務局において第1回委員会を開催予定である。

## (5) 音楽文献目録委員会（福田→今田）

定期購読の停止が増加、広告数の減少などにより、大幅な減収。打開策の一つとして、各方面からの助成金の獲得を目指している。今年度は、高久国際奨学財団から、国際本部への文献送付作業に対し30万円の助成金が交付された。冊子体からWEB版への移行も視野に入れて動いている。EB版のシステムは、目録1～45までを検索できる状況。ただし、それを常時安定した状態で維持するには、最低1名の常勤WEB担当者が必要で、財政面での問題が解決していないために、オープンできない状態が続いている。5月21日にRILM国際版（WEB版）を扱っているEBSCO Japanとシステム検討のための会合を行った。

## (6) 例会報告

<北海道地区> 8月18日（土）北海道教育大学札幌校にて、シンポジウム「現代における日本の伝統音楽」及び5本の研究発表を行った。（次号『音楽教育学』にて報告予定）

<近畿地区> 5月26日（土）滋賀大学にて今年度第一回例会を開催。6本の卒論・修論発表を行った。（第48巻第1号『音楽教育学』に掲載済み）

## 5. その他

台風が懸念されているが、朝6時に暴風警報が発令された場合、大会は中止になり、予定されている発表は発表したものとみなす。ただし、交通機関の影響等で会場に来られない場合はその限りではない。

## &lt;今後の会議予定&gt;

平成30年度 第4回常任理事会 日時：平成31年2月17日 14:00～ 場所：聖心女子大学

---

## 6 事務局より

---

事務局長 今田 匡彦

### 1) お詫びと訂正

ニュースレター第72号 p.3 の平成30・31年委員一覧選挙管理委員会に中里南子先生のお名前がありませんでした。お詫びして訂正致します。

平成30・31年度選挙管理委員会

[正] ○味府 美香 高木 夏奈子 中里 南子 長谷川 恭子 ◎水崎 誠

[誤] ○味府 美香 高木 夏奈子 長谷川 恭子 ◎水崎 誠

2) 年度会費未納の方は至急お支払いください。会費未納の場合、送付物の発送、学会誌への投稿、大会での発表等学会活動に支障を来すことになります。平成30年度会費は7000円です。

### 3) 学会誌バックナンバー販売について

『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』のバックナンバーを特価で販売しています。詳細は学会 website をご参照下さい。

4) 年末年始の閉局期間は、12月28日(金)～1月14日(月)です。この間のご連絡はメールまたはファックスにてお願いします。ただし、事務局員が不在となりますので、お返事は1月15日(火)以降になります。ご了解ください。

E-mail: onkyoiku アットマーク remus.dti.ne.jp FAX: 042-381-3562

---

### 【編集後記】

---

今年も残すところあとわずかとなりました。夏に続き秋にも台風や北海道胆振東部地震が起こるなど、災害の多い一年となってしまいました。被災された方には、心より御見舞い申し上げます。今号では10月に岡山で行われた全国大会の参加報告のほか、オルフ音楽研究会やコダーイ・アプローチに関する報告等を寄せていただきました。生き生きとした記事を寄稿していただき、心より御礼申し上げます。今後も会員の皆様の近況報告や参加されている学会の情報をお待ち申し上げております。皆様、どうぞ健康にお気をつけて良いお年をお迎えください。

投稿先アドレス (半角で) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

---

### 【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

TEL & FAX：042-381-3562 E-mail：(半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 \*郵便物は私書箱へ

開局日時：月・水・木 9:00～15:00

事務局員：亀山・若尾・宇田川